

令和5年度 最上地域農林水産業若者賞受賞者の概要

(五十音順・敬称略)

たかはし たかあき
■高橋 孝彰 氏（最上町）

大粒種のぶどうがほとんど生産されていなかった最上地域で、シャインマスカットを先駆的に栽培するなど、新しい分野に積極的に挑戦している。また、冬期間にたらの芽を栽培して周年農業に取り組み、経営安定化を図っている。

令和2年度に青年農業士に認定され、最上地域農業士会では令和3年度から役員に選任され、令和5年度に副会長及び青年農業士部会会長を務めるなど、地域農業の発展に尽力している。

令和5年度に最上町の認定農業者に認定される。

つとう しん
■津藤 伸 氏（鮭川村）

実家の両親が経営していた水稻と菌床しいたけ栽培に従事し、現在、水稻・菌床しいたけ経営の全権を担う。また、周年の菌床しいたけ栽培を確立するなど、経営の安定化を図っている。

J Aおいしいものがみ菌床しいたけ施設利用組合青年部の中心メンバーの一人として、村内の産業振興・地域の活性化を目的としたイベントに参加するとともに、小学校のきのこの日給食に参加する等、食育にも取り組んでいる。また、令和3年度から2年間、最上地域農業士会の副会長及び青年農業士部会会長、令和5年度からは監事を務めるなど、地域農業の振興に積極的に取り組んでいる。

平成30年度に鮭川村の認定農業者に認定される。